

## 石野典教授退職記念号によせて

経済学部長・経済学会長 長谷部秀孝

石野教授は2002年3月をもって定年で退職となりました。教授は、1976年に創価大学経済学部に着任なさって以来、ずうっと草創期の創価大学経済学部の運営に携わっていらしたわけです。その教授がいらっしゃらなくなるということで、経済学部もいよいよ寂しくなったという思いが募って参ります。

思い返せば、私の創価大学での20年は石野教授とともにあったと言っても過言ではありません。新任で創価大学にきて、右も左もわからない時期にあれこれと声をかけてくださったのが教授でした。6年目に長期在外研究の順番が回ってきたとき、迷っている私に「絶対行くべきである」と背中を強く押してくださったのも教授でした。このように、教授は若手のスタッフに対して折りにつけいろいろとアドバイスをするのが常でした。ただし、その私も大学に慣れてくると、大きな顔をして勝手なことを言い始めましたので、教授も「困ったやつだ」と思っていたのではないかと思っています。それにもかかわらず、そのように私たちに対しても暖かく見守ってくださっていました。さらに、当時行われていた一般教養科目である「経済学」の共通のテキストを、若手教員で作ることを考えられ、煩雑なその編集の役割を引き受けられました。原稿を何度も報告させられ、細かく文章までも目を通されていました。私はその途中で、長期在外研究のため日本を離れてしまいましたが、最後は合宿まで行って完璧

を期したと聞きました。

そのような思い出もありますが、石野教授との思い出の中で大きなものは、一緒に飲み歩いたことではないでしょうか。とにかくよく飲みに行った記憶があります。会議があったといえばご苦労様でしたと飲みに行く、研究会があればその後慰労のために飲みに行くという具合でした。いくつかおなじみの店を教えていただきましたが、その石野教授も途中で体調を崩され、その店にも足が遠のいています。やはり私たちには、あの教授のような役割は果たせないようで、飲みに行こうという声もなかなか聞かれなくなっています。単に酒を飲むことだけかと言えばそうではなく、その酒の席で様々な意見が出て、非常に有益であったと記憶しております。

このように書くと、始終飲みに行っていたように思われますが、研究においても私たちをリードするものがありました。最近の金融論は急激な進歩を遂げております。その変化に沿って石野教授は最新の問題を取り上げられてきました。先物市場、公社債市場、郵便貯金などの問題を研究され、バブル経済が華やかなときにはノンバンクの問題も取り上げられて、バブルの本質に迫る議論をされておりました。金融ビッグバンの際にも、銀行と郵貯の関連で色々な発言をなさっていました。さらに石野教授の関心は非常に広く、近年は韓国経済にも興味を示されていました。何度も韓国に足を運ばれて、シンポジウムでは貴

重な発言をなさっておられるようでした。このように、金融学会において石野教授の存在は非常に大きいものでありました。

学内行政の面でも、図書館長、研究科長、通信教育部長を歴任なされました。そして、図書館でも、大学院でも通教でも、常に改革に取り組まれていらっしゃいました。立ち止まるということを知らない、常に前進することを心がけておられ、私達にあるべき姿を教

えられていらっしゃったようでした。

教授は定年を機に後進に道を譲られ、これからは趣味の世界に生きていくとのことのおつもりようです。そのようなお話を伺うと、私などうらやましい限りであると思います。一時の体調不良からも回復されていられるようですので、これからも一働きも二働きもして頂きたいものと、後輩である私たちは願っております。

# 石野典名誉教授主要業績一覧表

2004.1.11

## <著書>

著書又は学術論文の名称	単著・共著	発表年月日	発行機関および雑誌名	概 要
世界各国の金融制度第八巻	共著	1973. 3	大蔵財務協会	レバノンの金融制度を担当
世界各国の金融制度第十三巻	共著	1978. 3	大蔵財務協会	サウジアラビアとクウェートの金融制度を担当
札幌市の経済と社会	共著	1975. 4	東洋経済新報社	札幌市の都市構造の経済学的分析
貨幣経済の分析	共著	1979. 5	学文社	マクロ経済を貨幣の視点から整理、分析
テキスト経済学	共著	1988. 3	世界書院	教養課程の経済学テキスト
入門経済学—経済を見る眼—	共著	1988. 4	自由書房	他の編者の下で展開
金融論—基本経済学シリーズ	共著	1996. 4	八千代出版	金融論テキストの編集
国際金融論—基本経済学シリーズ	共著	1996. 4	八千代出版	国際金融論テキスト
近世東アジアと日本の帝国主義	単著	2001. 3	創価大学アジア研究所	近世を如何に整理するかを考えた作業

## <学術論文および研究発表>

著書又は学術論文の名称	単著・共著	発表年月日	発行機関および雑誌名	概 要
The Change of Financial Structure in Japan	単著	1982. 6	創価経済論集12巻1号	オーストラリア国立大学で報告原稿
短期金融市場としての現先市場	単著	1981. 6	証券経済学会年報第十六号	神戸大学での全国大会にて発表原稿
Forward と Futures	単著	1985. 4	商品先物市場60年4月号	金利先物取引を中心に
金利先物市場について	単著	1984.10	証券研究74巻日本証券研究所	金融先物市場についての理論的研究
投機の経済理論	単著	1986. 4	証券研究78巻日本証券研究所	過去の経済学者の投機に関する考えの整理検討から独自な理解を探索
金融先物取引の評価と展望	単著	1986. 6	金融ジャーナル86年7月号	アメリカを中心として市場の分析と将来を展望
米国金融先物市場の一考察	単著	1987.10	金融学会秋季大会報告	主として統計資料での分析
ポスト・バブルの日本金融システム	単著	1992. 3	韓日経商論集第八号	韓日経商学会での報告
金融システムとは何か	単著	1993. 2	地銀協月報'93.2号 全国地方銀行協会	金融理解に欠かせない問題の新しい視点からの提言
金融システムの安全性とは	単著	1994. 4	経済研究所月報第七号成城大学経済研究所	システムの不安定はないのかを解明
金融の変容	単著	1998.11	創価経営論集第三巻第二号	金融システムが如何に変質しているか
デフレ下の金融政策の限界	単著	2002. 3	商学論集第四十三巻2.3号 中央大学	デフレの貨幣分析